

平成13年社会生活基本調査結果(速報)

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的としています。

この調査は、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施しており、今回の調査は6回目に当たります。本県では無作為に抽出した約1,400世帯で、10歳以上の世帯員約4,300人を対象に調査を実施しました。

第1 生活時間（茨城県）

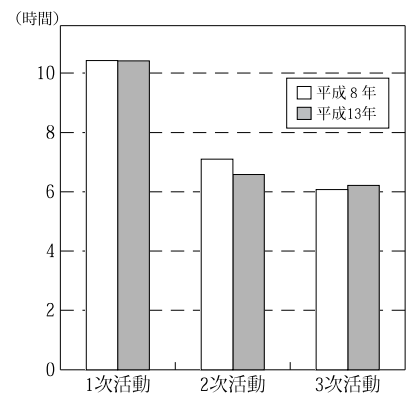
1 1日の生活時間

仕事などの時間が減少し自由時間が増加，男性で増減が顕著

県民（15歳以上）の1日の生活時間（週全体平均）をみると、睡眠などの1次活動時間が10時間41分、仕事などの2次活動時間が6時間58分、自由時間などの3次活動時間が6時間21分となっている。

全国平均との比較では、1次活動時間が7分長く、2次活動時間が2分、3次活動時間が5分短くなっている。これを平成8年と比べると、2次活動時間が12分減少し、3次活動時間が14分増加している。（図1）

図1 1日の生活時間（週全体平均）—茨城県—



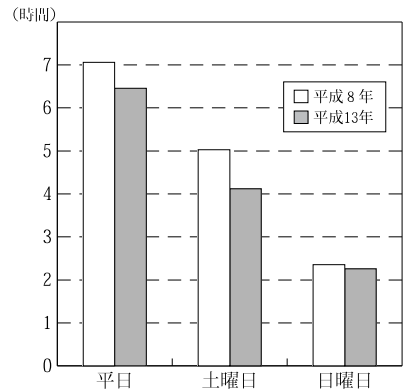
2 仕事時間

仕事時間が減少，特に土曜日が大幅減少

2次活動時間のうち県民の仕事時間は週全体で5時間47分、平日6時間46分、土曜日4時間12分、日曜日2時間26分となっている。全国平均との比較では、平日に17分、土曜日に7分少なく、日曜日に7分多くなっている。

これを平成8年と比較すると、週全体では24分減少しており、土曜日では51分と大幅な減少となっている。（図2）

図2 曜日別仕事時間の推移（有業者）—茨城県—



■調査から

茨城県のアルバイトは夜間型が多い

アルバイトをしている人の行動者率を全国と比較してみると、全国平均でピークになっているのは午前11時の35.6%であるが、本県の場合は午後8時の25.7%がピークとなっている。午後8時以降午前4時頃までの行動者率は本県が全国平均を上回っており、本県のアルバイトは夜間型が多くなっている。また、午後11時30分の行動者率は18.0%となっており、全国平均（7.6%）の2倍以上となっている。

3 家事関連時間

男女差の大きい家事関連時間

2次活動のうち家事関連時間（家事，介護・看護，育児及び買い物）は週全体で、男性が33分，女性が3時間43分となっている。平成8年と比べると，男性が7分増加し，女性も13分増加している。

曜日別では，男性が土曜日に13分増えており，女性は平日に22分増え，日曜日に13分減少している。

第2 自由時間（茨城県）

1 インターネット

男性の約5割，女性の約4割の人がインターネットを利用

本県で過去1年間に「インターネット」を利用した人（10歳以上）は約1,214千人で，利用者率は45.7%となっている。なお，全国の利用者率は46.4%であり，全国と比較すると0.7ポイント下回っている。

これを男女別にみると，男性の利用者率は51.6%（全国51.5%），女性の利用者率は39.9%（全国41.5%）となっており，男性の方が女性より11.7ポイント高くなっている。

また，年齢階級別にみると，15歳～24歳では女性の方が男性より高くなっているが，その他の年齢層では男性の方が高くなっている。

2 ボランティア活動

3割近くの人が「ボランティア活動」を実践。このうち，行動者率が最も高いのは「まちづくりのための活動」

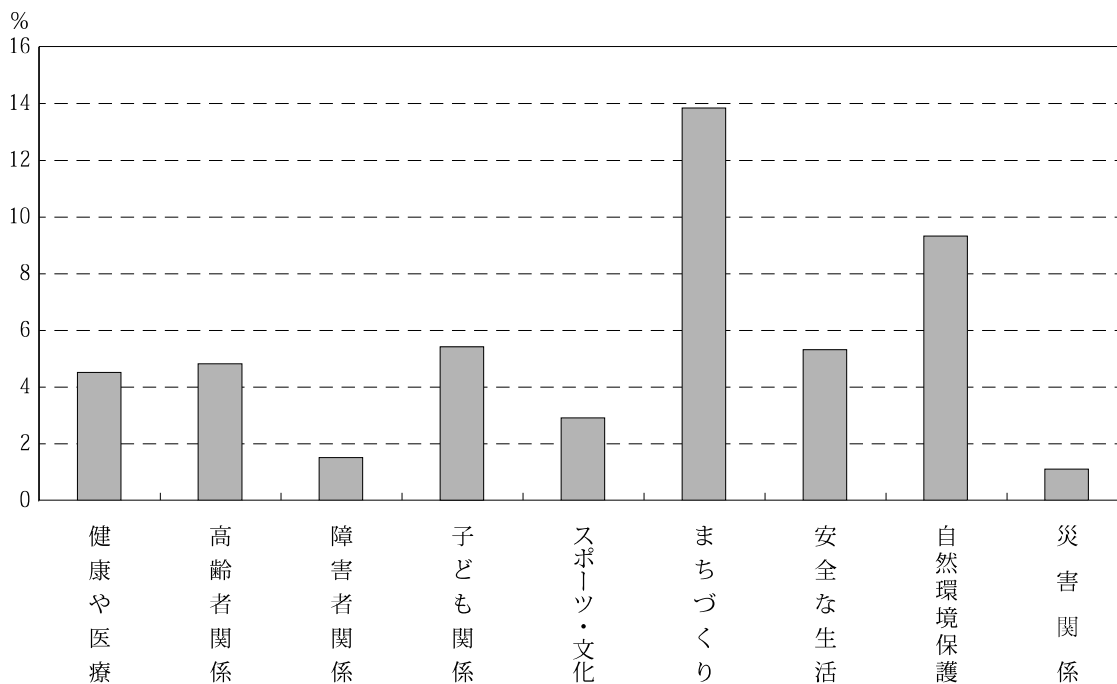
過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人（10歳以上）は約751千人で，行動者率は28.3%となっている。平成8年と比較すると0.1ポイント上昇しているが，全国の平均行動者率は28.9%であり，全国と比較すると0.6ポイント低くなっている。これを年齢層（15歳以上）でみると，35～44

歳では全国より3.9ポイント高くなっているが、45～54歳では6.8ポイント低くなっている。

また、平成8年と比較すると、全国的にはすべての年齢層で上昇しているが、本県の場合各年齢層での較差が大きく、75歳以上では6.3ポイント高く、45～54歳では10.7ポイント低くなっている。

また、種類別にみると「まちづくりのための活動」が13.8%と最も高くなっている。(図3)

図3 ボランティア活動の種類別行動者率 —茨城県—



3 学習・研究

男性、女性ともに「パソコン等の情報処理」の行動者率が高い

「学習・研究」の行動者率は33.8%で、全国の行動者率（36.2%）と比較すると2.4ポイント低くなっている。これを男女別にみると、男性は34.8%、女性は32.9%で男性のほうが1.9ポイント高くなっている。また項目別に見ると、男女ともに「パソコン等の情報処理」が最も高く、男性で18.0%、女性で12.2%となっている。その他では男性の「英語」（12.4%）、「人文・社会・自然科学」（11.4%）、女性の「家政・家事」（11.9%）、「英語」（9.9%）が高い数値を示している。

本県の行動者率を全国と比較すると、英語の行動者率が11.1%で全国第6位となっている。

4 スポーツ

7割以上の人が「スポーツ」

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人（10歳以上）は約1,863千人で、行動者率は70.1%となっている。全国平均は72.2%であり、全国に比して2.1ポイント低くなっている。行動者率が高い種類は「運動としての散歩・軽い体操」（42.7%）,「ボウリング」（20.0%）,「水泳」（16.3%）の順となっている。

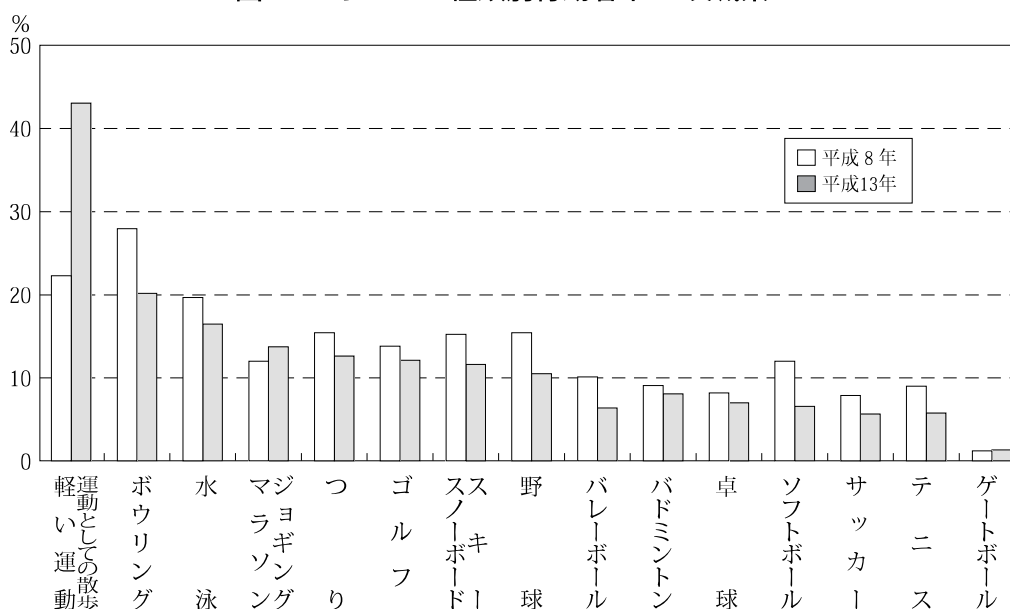
行動者率が上昇した「ジョギング・マラソン」

「スポーツ」の行動者率を項目別に平成8年と比較すると「運動としての散歩・軽い体操」が大幅に上昇し、「ジョギング・マラソン」がやや上昇している。一方、「ボウリング」,「ソフトボール」,「野球」,「スキー・スノーボード」などは低下している。

「ジョギング・マラソン」の行動者率は全国的に増えているが、本県の行動者率は13.6%で全国（11.8%）第4位である。

また、「つり」の行動者率は全国的にも減っているが、本県の行動者率は12.5%で全国第41位である（全国の行動者率14.2%）。（図4）

図4 スポーツの種類別行動者率 —茨城県—



用語	1次活動	生理的に必要な活動（睡眠，食事など）
	2次活動	社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動（仕事，家事など）
	3次活動	上記以外で各人が自由に使える時間における活動（趣味・娯楽など）
	行動者率（利用者率）	属性別の人口に対する行動者（利用者）の割合（%）